

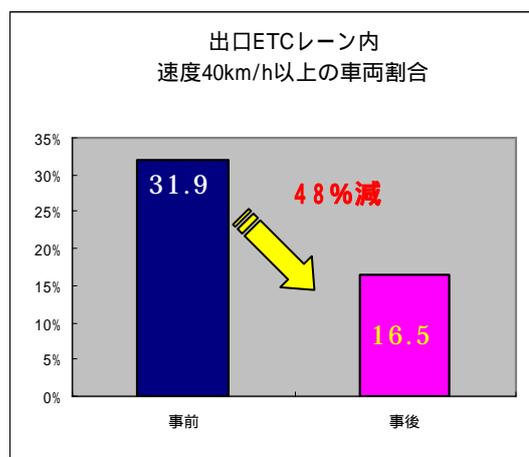
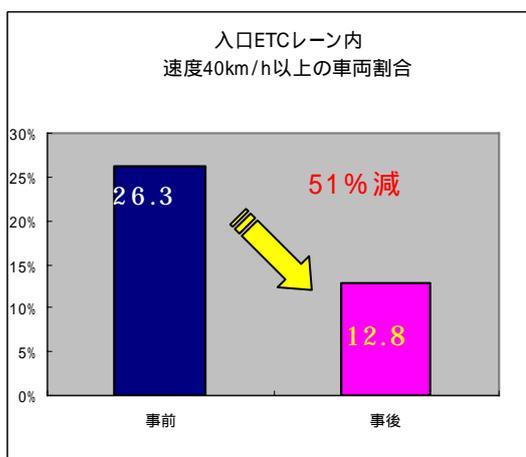
《山陽道姫路西料金所での試行結果(試行期間 平成20年3月24日～)》

試行前後でETCレーンへの高速進入車両が半減しました。また全体的に速度が低下したため、開閉バーへの接触率も減少しました。

(事前は平成20年2月23日～3月23日、事後は3月25日～4月23日のデータ)

) 高速車両(40km/h以上)の推移

山陽自動車道姫路西料金所で車両検知器の反応時間を0.5秒 0.9秒に遅延した結果、速度40km/h以上の車両割合が入口レーンで26.3% 12.8%に、出口レーンで31.9% 16.5%に。約50%減少しました。



) 開閉バーへの接触件数の推移

開閉バー接触発生率が0.0596% 0.0508%となり約15%減りました。

(開閉バー接触発生率 = 接触件数 ÷ 利用総台数)

